

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	21 / 1975 / 44-50
タイトル	岩壁の鳥
著者名	石井徹

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

岩壁の鳥

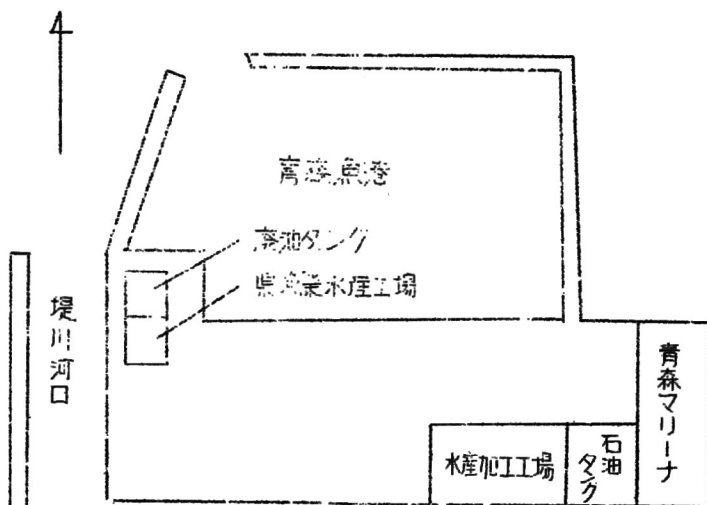
1年 石井 徹

1. 場所 堤川河口～青森マリーナ
2. 期間 1972年1月1日～1975年9月13日
3. 様子 青森市に面し、堤防内は青森漁港となっている。周辺には、2、3の水産加工工場も散在し、東側には合浦公園もある。

4. おおまかな鳥相

主として水鳥が渡来する。冬には、多くのカモ・カモメ類が渡来し、春秋の渡りの時期には、少数ながらシギも渡来する。

5. 地図



6. 今までに観察した鳥とこの地域における様子

アビ科

1 (シロエリ)オオハム

1972年12月25日に初認された後、普通に観察できる鳥である。単独でしか観察できず、割合岸近くまで寄って来る。

シロエリオオハムとオオハムとの冬羽での区別は困難であるため、同一個体として記載した。

カイツブリ科

2. ミミカイツブリ

1973年2月に、1羽観察しただけである。また、1973年4月2日に新井田川で、夏羽を1羽観察している。

3. ハジロカイツブリ

11月下旬から3月下旬まで、普通に観察できる。5～30羽程度の群れを作っていることが多い。

ウ科

4. ウミウ

5. ヒメウ

11月下旬から3月初旬まで、普通に観察できる。どちらかというところ、ウミウよりヒメウの方が多く観察できる。

1972年4月7日には、約11羽のヒメウの群れをみた。

ガンカモ科

6. コクガン

1974年1月15日に約10羽、1975年1月5日約8羽の群れが、沖を飛んで行った。新井田川では、よく観察できるので、下流方面から新井田川へ行った帰りと思われる。

7. オオハクチョウ

1973年2月6日に、上空を1羽飛んで行った。

8. マカモ

1973年11月に 出河氏が、沖で群れを観察している。

9. カルガモ

1972年11月5日に、7羽の群れが上空に飛んで行った。

10. ホシハジロ

1974年2月に、各1羽♀1羽が、やや沖合を飛んで行った。

11. キンクロハジロ

1975年1月5日に♂1羽♀2羽, 同年2月3日に♂3羽♀羽をやや沖合で観察した。

12. スズガモ

普通種。単独でいることもあるが, 10羽程度の群れを作ることが多い。

13. ビロードキンクロ

1973年12月25日に, ♀1羽を観察できた。それ以降も, 数度それらしきものを観察されているが, 種を確認するまでにはいかなかった。

14. ホオジロガモ

普通種。2~3羽の群れでいることが多い。

15. ウミアイサ

普通種。1972年~1973年にかけては, 50~70羽程度の群れも珍らしくなかったが, 今では, 珍しくなってしまった。

④ スズガモ, ホオジロガモ, ウミアイサは, 11月下旬から3月下旬まで観察できる。

ツタカ科

16. トビ

留鳥。羽にあげておくことは多いが, 冬に, 水邊で羽をばたかして降下して, エサを取ることがある。

シギ科

17. トウネン

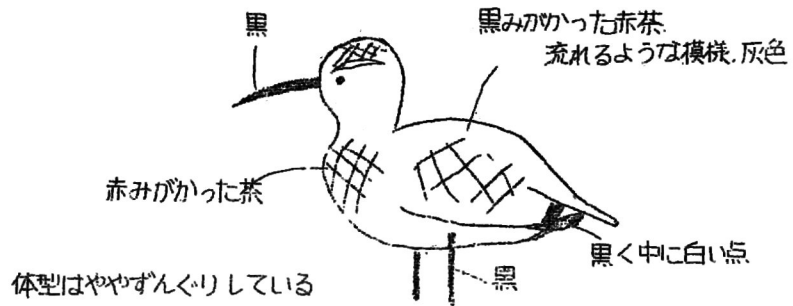
1975年9月13日に, 8羽の群れが堤防にあがってきて, エサを取っていた。

18. ハマシギ

秋によく観察できる。2~10羽の群れを作っていることが多い。

19. サレハマシギ

1973年10月14日に4羽の群れを観察した。Xモをもとに青森野鳥の会の対馬先生と相談の結果, これではないかということになった。(次頁上図参照)



20. オバシギ

1973年9月10日に冬羽2羽が、川むこうの堤防の上で写っていた。

21. キアシシギ

1972年9月23日に冬羽1羽が、水産加工工場の前の方の岸でエサを取っているのを、また、1975年9月13日に夏羽1羽が、堤防の上でエサを取っているのを観察した。

22. イソシギ

1973年、1974年の7月の初旬によく観察されたが、今後は観察できなかつた。

カモメ科

23. コリカモメ

9月初旬から2月中旬にかけて冬羽が、2月中旬からいつまでか4月初旬から5月中旬まで、夏羽を観察できる。2月中旬にここにいないが、他の場所では観察できるのは、不思議な事である。

24. セグロカモメ

25. オオセグロカモメ

よく類似した鳥である。9月上旬からセグロカモメは5月下旬まで、オオセグロカモメは6月中旬まで観察できる。

26. ワシカモメ

1972年1月の中旬の白曜日に1羽観察した。北方型のカモメである。

27. カモメ

1972年の冬までは、普通に観察されていたが、今は、まれになってしまった。

29. ミツユビカモメ

沖合に多くいるカモメで、岸近く渡来するのはめずらしいと言われている。11月初旬から4月初旬まで観察でき、幼鳥(亜成鳥)は、少し遅れて渡来する。次に初認日と終認日をあげておく。

初認日		終認日
1972年11月4日	～	1973年4月3日
73年11月2日	～	74年4月13日
74年11月2日	～	75年4月2日

30. チュウアジサシ

1972年9月25日に約20羽の群れを、1975年9月13日に1羽を観察した。また、野洲川や新井田川でも観察されていることと寺口は観察できないことより、秋の渡りのルートの一つになっているのではないかと思う。

アマツバメ科

31. アマツバメ

1975年9月10日に10羽の群れが、上空を舞っていた。

ツバメ科

32. ツバメ

毎年5月中旬頃に、上空を飛んでいるのを観察できる。

33. イワツバメ

毎年5月初旬と6月中旬頃に10～20羽程度の群れを観察できる。

セキレイ科

34. ハクセキレイ

主に秋から冬にかけて観察できる。1972年9月29日には、30羽前後の群れを観察した。

35. セグロセキレイ

主に春から冬にかけて観察できるがわりセキレイ程物が多くない。また空巣に木材を置かなくなったせいも、数がめっきり減ってきた。

ヒヨドリ科

36. ヒヨドリ

冬に、上空を2-10羽程度の群れを作って、飛んでいくのを観察できる。

レンジャク科

37. キレンジャク

38. ヒレンジャク

1973年3月16日に、水産庁工場の近くの産地の木にとまっているのを観察した。

カワガラス科

39. カワガラス

1972年1月下旬に、石巻橋のたもとにはった氷に、10羽の群れを観察した。

ヒタキ科

40. イソヒヨドリ

秋から冬にかけて、よく観察される。

41. ツグミ

冬によく観察される。

アトリ科

42. カワラヒワ

3月下旬から5月下旬にかけて観察できる。

ハタオリドリ科

43. スズメ

ムクドリ科

44 ムクドリ

カラス科

45. ハシボソカラス

46. ハシブトカラス

増加種……

ウミスズメ科

47. ナミウミスズメ

11月下旬から2月下旬頃まで、観察できる。2～5羽程度の群れを作っていることが多い。

鳥名・科名・配列は 日本鳥類保護連盟発行の「野鳥観察用鳥類図鑑」による。

〈参考文献〉

鳥類図鑑	小学館
鳥	学習研究社
日本鳥類図鑑	保濟社
野外観察用鳥類図鑑	日本鳥類保護連盟